

岡山大学病院における運動器慢性痛に対するチームアプローチと就労支援の取り組み

研究分担者 鉄永倫子 岡山大学病院整形外科 助教

研究要旨

コロナ禍での身体機能低下に影響する因子の検討を行い、コロナ禍以降に出現した仕事・勉強のパフォーマンス低下、不眠、不安・抑うつが悪化が身体機能低下に関与した。オンラインを利用した就労支援を今後検討したい。

A. 研究目的

岡山大学病院では、難治性慢性痛患者に対して2012年より多職種が集まり運動療法を中心とした集学的なアプローチを外来で行っている。特に社会生活を送る上で問題となるのは就労であり、当院では総合患者支援センターと連携して慢性痛患者に積極的に復職支援を行ってきた。この3年の研究期間ではコロナという未曾有の出来事があった。コロナ前は就労を長期目標にされ、積極的な就労支援を行っていたが、コロナ禍では、就労を目標とする患者さんは減少し当院の就労支援システムを利用し就労した患者さんはおらず、相談・アドバイス・県外ハローワークへの引継ぎに留まった。そこで、コロナ禍での身体機能低下に影響する因子の検討を行い、仕事と慢性痛の関係について検討したので報告する。

B. 研究方法

対象は2020年8月25日から9月30日に実施されたJapan COVID-19 and Society Internet Survey (JACSIS)の慢性痛あり・なしの4,972 matched-participants (男性2311名、女性2661名)、平均年齢53.8歳、慢性痛あり群2486名、慢性痛なし群2486名であった。

すべての参加者は自己申告のアンケートにイ

ンターネット上で回答した。

(倫理面への配慮) インターネット調査上で同意を得た。

C. 研究結果

身体機能の低下に影響する因子を多重ロジスティック回帰分析したところ、コロナ禍での身体機能低下に元々あった慢性痛は関与しないことがわかった。一方でコロナ禍以降に出現した仕事・勉強のパフォーマンス低下、不眠、不安・抑うつが悪化が身体機能低下に関与した。

D. 考察

コロナ禍の影響として、今後慢性痛患者のみならず、新たな慢性痛患者の増加が懸念されている。また、失業も更なる問題となっており、復職も困難な状況が続いている。そのような中で、今回、元々あった慢性痛は進呈機能低下に影響しないが、コロナ禍以降に出現した仕事・勉強のパフォーマンス低下、不眠、不安・抑うつが悪化が身体機能低下に関与したことから、いかに、コロナ禍でも就労や学業を続けることがのちの身体機能維持に影響することが明らかとなった。今後、慢性痛患者の集学的治療にあたる際に、現在の環境の維持に努めるようにアドバイスしていきたいと考える。また、コロナ禍では、就労

のための資格を取る方がオンラインを使っておられ、今後は新たな支援体系を模索したい。

E. 結論

コロナ禍以降に出現した仕事・勉強のパフォーマンス低下、不眠、不安・抑うつが悪化が身体機能低下に関与した。今後オンラインを利用した就労支援も検討していきたいと考える。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Tsuji H, Tetsunaga T, Tetsunaga T, Misawa H, Nishida K, Ozaki T. Cognitive factors associated with locomotive syndrome in chronic pain patients: A retrospective study. J Orthop Sci. 2020 Sep 14;S0949-2658(20)30256-6. doi: 10.1016/j.jos.2020.08.007.
2. Tetsunaga T, Tetsunaga T, Nishida K, Misawa H, Takigawa T, Yamane K, Tsuji H, Takei Y, Ozaki T. Short-term outcomes of mirogabalin in patients with peripheral neuropathic pain: a retrospective study. J Orthop Surg Res. 2020 May 26;15(1):191. doi: 10.1186/s13018-020-01709-3.
3. Tetsunaga T, Yamada K, Tetsunaga T, Sanki T, Kawamura Y, Ozaki T. An accelerometer-based navigation system provides a acetabular cup orientation accuracy comparable to that of computed tomography-based navigation during total hip arthroplasty in the supine position. J Orthop Surg Res. 2020 Apr 15;15(1):147. doi: 10.1186/s13018-020-01673-y.

4. Tetsunaga T, Yamada K, Tetsunaga T, Furumatsu T, Sanki T, Kawamura Y, Ozaki T. Comparison of the accuracy of CT- and accelerometer-based navigation systems for cup orientation in total hip arthroplasty. Hip Int. 2020 Feb 4;1120700020904940. doi: 10.1177/1120700020904940.
5. 鉄永 倫子. 神経障害性疼痛に対するアプローチ～ミロガバリンへの期待～. 東住吉区医師会広報.
6. 鉄永 倫子. 神経障害性疼痛に対するアプローチ～ミロガバリンへの期待～. 北足立郡市医師会会報.
7. 鉄永 倫子. 日経メディカル「高齢者腰痛診療 コロナによる疼痛への弊害、逆境をバネにコロナからの恩恵を考える」座談会.

2. 学会発表

1. 鉄永倫子. 岡山大学病院における高齢者手術とチーム医療；術前・術中・術後をサポート. 第32回日本老年麻酔学会. 2020年2月8日、倉敷市
2. 鉄永倫子, 鉄永智紀, 西田圭一郎, 松崎孝, 井上真一郎, 太田晴之, 小川敦, 石橋京子, 宮本和子, 尾崎敏文. 運動器慢性痛患者に対する就労支援のシステム構築を目指して. 第93回日本整形外科学会学術総会、2020年6月11日～8月31日
3. 鉄永倫子, 鉄永智紀, 西田圭一郎, 三澤治夫, 瀧川朋亨, 山根健太郎, 尾崎敏文, 竹井義隆. 慢性腰痛患者におけるデュロキセチン塩酸塩の効果は抑うつの有無により影響するか. 93回日本整形外科学会学術総会、2020年6月11日～8月31日

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他